

現状の整理

- 現行の「長野県文化芸術振興計画」の期間中(2018.4~2023.3)では、文化芸術の力で創造性あふれる信州をつくることを目標に掲げ、人材の育成や文化芸術を活用した地域の活性化、拠点の充実などを推進。
- 主な取組として、
 - ① 芸術監督団事業やセイジ・オザワ松本 フェスティバルの共催、東京2020文化プログラムにより、優れた演劇や音楽を鑑賞いただく機会を県内で提供
 - ② 北アルプス国際芸術祭や木曾ペインティングスなど、アーティスト・イン・レジデンスを通じた地域の資源や人材の掘り起こしの推進
 - ③ 県民参加による美術館づくりを進め、2021年4月に美術分野の拠点となる「県立美術館」を開館
 - ④ 文化芸術の中間支援機能を担う「信州アーツカウンシル」が始動し、地域主体の文化芸術活動を支援する体制を整備
- 新型コロナウイルスの影響はあったものの、文化芸術を担う人材が各地域に育ち、そのつながりが強まってきたこと、地域が主体となって、その資源を活かした文化芸術活動の芽が育ってきたことなどの成果が上がったと認識。
- 引き続き優れた文化芸術を創造・発信していくためには、こうしたハード・ソフト両面の資源の最大限の活用と、地域や民間団体等といった多様な主体との連携が求められている。



長野県立美術館 (2021.4開館)



信州アーツカウンシルキックオフイベント (2022.6.11)

長野県の特長

●長野県の特長として、自然豊かな風土の中に人々の暮らしが溶け込んでおり、人と自然の相互関係により育まれる営みが挙げられる。

その生活と風土はひとつの生態系を成して、地域固有の伝統芸能など、多様な文化芸術を支えている。

●また、三大都市圏から比較的近く、それぞれを結ぶ交通の要所として人の交流が活発であるという地理的要素、加えて、江戸時代には寺子屋数が、今日では公民館や博物館等が日本一多いことに表れている、学びに対して意欲的な県民性も本県の特長となっている。



今後の方向性

●人と自然との相互関係による営みから生まれる長野県の文化芸術をより高め、その力を多様な主体との連携により様々な分野に展開することで、本県の文化芸術の持続的な発展に繋げていく。

●併せて、これまでの取組や成果を最大限生かし、さらに高めることで、地域に根差した活動から世界レベルの表現・作品にわたる幅広い文化芸術を創造・発信していく。